



学校だより

令和4年10月12日 NO.30

尼崎市立金樂寺小学校

校長 中根 孝介



…秋の夜長の楽しみ方…

日が沈むのがみるみるうちに早くなりました。「秋の夜長」の時季にもなります。昔から、秋の夜長を楽しむものとして、いろいろなものが知られています。虫の声、月夜、音楽を聴く…。近頃、家で静かにしていると外から「リーン、リーン」と秋の虫の声がよく聞こえてきます。そんな時は、何となく穏やかな気分になるものです。

読書も秋の夜長を楽しむもののひとつです。「読書は、心の栄養」とも言われます。私たちを空想の世界やサスペンスの世界に連れて行ってくれます。そして、ある時は、それまで知らなかった新しい知識や出来事に出会わせてくれます。知らず知らずのうちに、字を覚えたり、読み解く力がついてきたりすることもあるでしょう。様々な効果がありそうです。

秋の夜長をお子さんと、そんな読書を楽しんでみませんか。読書でなくても「静かに（のりのりで）音楽を聴く」でもいいかもしれません。ゆっくりとお子さんと接し、話しかけることで、子どもの心も満足感で満たされ、心が落ち着くことも多いとも言われています。子どもたちにとって、家庭や学校は安心できる安全地帯でありたいものです。



< 3年国語 話し合い活動「^{あさどく}朝読について」 >

3年生の国語で「はんで意見をまとめよう」という学習の様子を参観しました。教師自身の指導方法や支援の方法などを高めるため、教員相互で学習の様子を見合い、意見交流をすることで教員の指導力をつけていくために行う校内研修の一環です。どの学級も最低でも年に一度は、取り組みます。すでに今年度もいくつかのクラスで取り組んでいます。年に数回、教科書を執筆されている先生にもご来校していただき、アドバイスをいただく機会もあります。

今回、「朝読をなぜするのか話し合おう」というテーマで班ごとに話し合いました。「朝読」は、昨年からはじめた全校での取り組みです。学習前の朝の時間に読書に親しむことで、読み解く力や考える力を伸ばす目的で実施しています。語彙も増やすことができ、落ち着いた環境で朝のスタートを切ることもできます。2年目の今年は、図書委員会の児童や校長が、教室に行って絵本などを読んで聞かせることもあります。「朝読」以外にも給食時には、給食委員会からの読み聞かせをすることもあります。

3年の学習では、班で司会、記録などの役割分担をして、意見を交流していました。実に様々な意見が出ていました。前もって役割分担を決めたり、付箋を使って意見を出しやすいよう工夫したりしていたことがスムーズに進行できた秘訣だったかもしれません。班での話し合いを別の班の子どもたちが観察して、よかった点やアドバイスをしました。観察していた子どもからも「いろいろな意見を言っている。その調子…」と話し合いをしていた班へ励ましのコメントもありました。

毎日近くで一緒に生活しているとわかりづらいですが、子どもたちも日々、確実に成長をしています。そんな成長を見つけて、ともに認めて喜び合いたいものです。活躍したことや何気ない日常をほめてもらうことや認めてもらうことで、さらに伸びていきます。